

平成26年8月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年7月1日

上場取引所 東

上場会社名 ケイティケイ株式会社
 コード番号 3035 URL <http://www.ktk.gr.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理本部長
 四半期報告書提出予定日 平成26年7月2日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(氏名) 青山 英生
 (氏名) 木村 裕史

TEL 052-931-1881

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年8月期第3四半期の連結業績(平成25年8月21日～平成26年5月20日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年8月期第3四半期	13,549	64.0	30	△3.9	41	△7.0	△8	—
25年8月期第3四半期	8,262	—	31	—	44	—	54	—

(注) 包括利益 26年8月期第3四半期 3百万円 (△94.8%) 25年8月期第3四半期 75百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年8月期第3四半期	△1.50	—
25年8月期第3四半期	11.29	—

決算期の変更(5月20日を8月20日)に伴い、24年8月期は15か月の変則決算となります。このため、25年8月期第3四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年8月期第3四半期	8,767	2,499	28.5
25年8月期	7,915	2,507	31.7

(参考) 自己資本 26年8月期第3四半期 2,499百万円 25年8月期 2,507百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年8月期	—	3.00	—	2.00	5.00
26年8月期	—	0.00	—	—	—
26年8月期(予想)	—	—	—	2.00	2.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年8月期の連結業績予想(平成25年8月21日～平成26年8月20日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	17,030	36.3	50	2,538.3	53	49.1	11	△92.3	1.98

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年8月期3Q	5,875,000 株	25年8月期	5,875,000 株
② 期末自己株式数	26年8月期3Q	152,815 株	25年8月期	152,815 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年8月期3Q	5,722,185 株	25年8月期3Q	4,802,247 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく監査手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、本資料の発表日現在における入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因により予想数値と異なる結果となる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については四半期決算短信(添付資料)3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第 3 四半期連結累計期間(平成25年 8 月21日～平成26年 5 月20日)におけるわが国経済は、政府主導による経済政策や日本銀行の金融緩和策が下支えする中で、企業収益や個人消費が改善に向かうなど、緩やかではありますが回復傾向が続きました。

しかしながら、株式市場の低迷や消費税引き上げ後の景気停滞(需要減速)懸念は拭えず、地方経済や中小企業における景気の先行きは、依然として不透明な状況で推移しております。

当社グループが位置するオフィス用品の分野においては、景気回復を受けての企業活動の活発化に加え、3 月には消費税率引き上げ前の駆け込み需要など好材料があった一方で、企業の節約志向は継続的であり、受注を巡っての企業間競争は激しさを増しております。

このような状況のもと、当社グループは今期第 1 四半期より敷いた新たな営業体制を軸に顧客接点の強化を図り、引き続きお客様の立場に立ったきめ細かな営業活動を展開しました。

これらの結果、当第 3 四半期連結累計期間の売上高は13,549百万円(前年同四半期比64.0%増)となりました。営業利益は30百万円(前年同四半期比3.9%減)、経常利益は41百万円(前年同四半期比7.0%減)、四半期純損失は 8 百万円(前年同四半期累計期間は54百万円の四半期純利益)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

(サブライ事業)

当社グループの主力商品であるリサイクル商品(リパクトナー)は、景気回復を受けての活発な企業活動による使用量の増加や消費税率引き上げ前の駆け込み需要に後押しされ、販売本数、売上高ともに前年同四半期を上回りました。

OAサブライ商品は、純正トナーや純正インクなどのプリンター消耗品、プリンターなどのOA機器の売上高が増加しました。

その他商品においては、当社独自のWeb購買システム「ケイティケイ はっするネット」の推進による一般事務用品などの売上高や前期第 2 四半期より連結対象となった株式会社青雲クラウンの売上高が順調に推移、また今期より連結対象となった S B Mソリューション株式会社の売上高が加わり、売上高は増加しました。

これらの結果、売上高は13,397百万円(前年同四半期比65.9%増)、セグメント利益(経常利益)は34百万円(前年同四半期比197.6%)となりました。

なお、当社の連結子会社である株式会社青雲クラウンの業績は、多くの顧客の年度末及び年度始めにあたる当社第 3 四半期連結会計期間以降に売上高が多く計上されるという季節の変動があります。

(ソリューション事業)

「@Securemail」シリーズの売上高が増加したものの、大型ホスティング案件及び大型「SPIS-BOX」案件終了の影響を受け、売上高が減少しました。また、売上高に占めるホスティングサービスの売上高が低下したことにより、利益率が低下しました。

これらの結果、売上高は152百万円(前年同四半期比18.9%減)、セグメント利益(経常利益)は 6 百万円(前年同四半期比79.1%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ851百万円増加し、8,767百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ799百万円増加し、6,017百万円となりました。これは、主に受取手形及び売掛金が825百万円、商品及び製品が71百万円増加し、現金及び預金が60百万円減少したこと等によります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ52百万円増加し、2,749百万円となりました。これは、投資その他の資産が209百万円増加し、有形固定資産が145百万円、無形固定資産が11百万円減少したことによります。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ779百万円増加し、5,485百万円となりました。これは、主に支払手形及び買掛金が443百万円、短期借入金が281百万円増加したこと等によります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ80百万円増加し、782百万円となりました。これは、主に長期借入金184百万円増加し、役員退職慰労引当金が102百万円減少したこと等によります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ7百万円減少し、2,499百万円となりました。これは、主に利益剰余金が20百万円減少したこと等によります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年8月期の連結業績予想につきましては、平成25年10月3日に発表いたしました連結業績予想より変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

《簡便な会計処理》

①一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第 3 四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率を使用して貸倒見積高を算定しております。

②たな卸資産の評価方法

当第 3 四半期連結会計年度末のたな卸高の算出に関しては、実地たな卸を省略し、前連結会計年度末の実地たな卸高を基礎として合理的な方法により算出する方法によっております。

また、たな卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。

③固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

④経過勘定項目の算定方法

合理的な算定方法による概算額で計上する方法によっております。

⑤法人税並びに繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

法人税等の納付額の算定に関しては、加味する加減算項目や税額控除項目を重要なものに限定する方法によっております。

繰延税金資産の回収可能性の判断については、前連結会計年度末以降に経営環境等に著しい変化が生じておらず、一時差異等の発生状況に大幅な変動がないと認められるため、前連結会計年度において使用した将来の業績予想やタックス・プランニングを利用しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年 8 月20日)	当第 3 四半期連結会計期間 (平成26年 5 月20日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,924,197	1,864,054
受取手形及び売掛金	2,535,410	3,360,453
有価証券	20,998	21,006
商品及び製品	536,933	608,850
仕掛品	2,972	681
原材料及び貯蔵品	65,872	59,431
その他	137,036	107,783
貸倒引当金	△4,542	△4,284
流動資産合計	5,218,879	6,017,977
固定資産		
有形固定資産		
土地	1,174,804	1,104,279
その他(純額)	463,971	389,294
有形固定資産合計	1,638,776	1,493,573
無形固定資産		
その他	227,590	216,222
無形固定資産合計	227,590	216,222
投資その他の資産		
その他	839,737	1,048,204
貸倒引当金	△9,310	△8,494
投資その他の資産合計	830,426	1,039,710
固定資産合計	2,696,793	2,749,505
資産合計	7,915,672	8,767,483
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,875,907	3,319,860
短期借入金	1,384,582	1,666,253
未払法人税等	20,621	7,660
賞与引当金	30,939	21,275
その他	393,983	470,153
流動負債合計	4,706,033	5,485,201
固定負債		
長期借入金	404,928	588,997
役員退職慰労引当金	183,405	80,865
その他	114,081	112,730
固定負債合計	702,414	782,592
負債合計	5,408,447	6,267,794

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年 8 月20日)	当第 3 四半期連結会計期間 (平成26年 5 月20日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	294,675	294,675
資本剰余金	708,475	708,475
利益剰余金	1,532,242	1,512,207
自己株式	△46,419	△46,419
株主資本合計	2,488,973	2,468,938
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	18,251	30,750
その他の包括利益累計額合計	18,251	30,750
純資産合計	2,507,225	2,499,688
負債純資産合計	7,915,672	8,767,483

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第 3 四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第 3 四半期連結累計期間 (自 平成24年 8 月21日 至 平成25年 5 月20日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 平成25年 8 月21日 至 平成26年 5 月20日)
売上高	8,262,437	13,549,797
売上原価	6,415,247	10,908,770
売上総利益	1,847,190	2,641,027
販売費及び一般管理費	1,815,301	2,610,384
営業利益	31,888	30,642
営業外収益		
受取利息	131	2,566
受取配当金	650	5,993
持分法による投資利益	13,621	—
仕入割引	10,100	34,390
受取家賃	10,455	22,854
その他	4,544	10,267
営業外収益合計	39,505	76,072
営業外費用		
支払利息	10,607	17,861
売上割引	12,135	37,009
その他	4,000	10,318
営業外費用合計	26,744	65,188
経常利益	44,649	41,525
特別利益		
負ののれん発生益	26,297	—
保険解約益	—	12,198
特別利益合計	26,297	12,198
特別損失		
たな卸資産廃棄損	—	37,805
固定資産除却損	—	6,181
特別損失合計	—	43,986
税金等調整前四半期純利益	70,946	9,737
法人税、住民税及び事業税	18,639	6,522
法人税等調整額	△1,928	11,805
法人税等合計	16,710	18,328
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失 (△)	54,236	△8,590
四半期純利益又は四半期純損失 (△)	54,236	△8,590

四半期連結包括利益計算書
第 3 四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第 3 四半期連結累計期間 (自 平成24年 8 月21日 至 平成25年 5 月20日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 平成25年 8 月21日 至 平成26年 5 月20日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失 (△)	54,236	△8,590
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	20,734	12,498
持分法適用会社に対する持分相当額	314	—
その他の包括利益合計	21,049	12,498
四半期包括利益	75,285	3,908
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	75,285	3,908
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第 3 四半期連結累計期間(自 平成25年 8 月21日 至 平成26年 5 月20日)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第 3 四半期連結累計期間(自 平成24年 8 月21日 至 平成25年 5 月20日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
	サプライ事業	ソリューション事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	8,074,277	188,160	8,262,437	—	8,262,437
セグメント間の内部売上 又は振替高	—	429	429	△429	—
計	8,074,277	188,590	8,262,867	△429	8,262,437
セグメント利益	11,632	33,017	44,649	—	44,649

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を図っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

「サプライ事業」セグメントにおいて、当社が平成24年12月21日に株式会社青雲クラウンを完全子会社化したため、当第 3 四半期連結累計期間において、負ののれん発生益26百万円を計上しております。なお、負ののれん発生益は特別利益のため、セグメント利益には含まれておりません。

II 当第 3 四半期連結累計期間(自 平成25年 8 月21日 至 平成26年 5 月20日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
	サプライ事業	ソリューション事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	13,397,120	152,677	13,549,797	—	13,549,797
セグメント間の内部売上 又は振替高	—	281	281	△281	—
計	13,397,120	152,958	13,550,078	△281	13,549,797
セグメント利益	34,622	6,903	41,525	—	41,525

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を図っております。

(重要な後発事象)

子会社の取得について

当社は、平成26年 6 月 6 日開催の取締役会において、株式会社キタブツの子会社である株式会社キタブツ中部の株式を取得(完全子会社化)することを決議し、同日付で株式譲渡契約を締結いたしました。

①株式取得の目的

当社グループは、物流倉庫を全面的に集約するための第一段階として、当社連結子会社である株式会社青雲クラウンの物流業務を、昨年より物流専門会社である株式会社キタブツが中部地区における物流の拠点として設立した新ロジスティックセンター株式会社キタブツ中部に委託してまいりました。

当社では、購買チャネルの多様化に伴う競合間の販売競争が益々激化する中、持続的発展を続けるためには、さらなる物流改革を推し進め、全体最適化を視野に入れた当社グループの中長期的な企業競争力を確保することが重要であると認識しております。そのために、物流における豊富なノウハウと強みを当社グループに取り込み、意思決定を迅速化することは、当社グループが目指す垂直統合型ビジネスモデルを堅固にする欠くことのできない重要な戦略であると考え、株式会社キタブツ中部の株式を取得することといたしました。

②株式取得の相手先の名称

株式会社キタブツ

③取得する会社の名称等

商号	株式会社キタブツ中部
住所	愛知県小牧市大字上末2488番地 9
代表者	代表取締役社長 早川幸雄
資本金	40,000千円
事業の内容	貨物運送事業及び倉庫業

④株式の取得時期

平成26年 6 月 23 日

⑤取得する株式の数及び取得後の持分比率

取得株式数	40,000株
取得後の持分比率	100%